



第18回さくら写真展 みずほ賞
「千畝の春」

分野別の施策

区の将来像の実現に向けた8つの方針に基づき、現状や課題、めざすべき姿やそれを実現させるための方策をまとめました。

将来像I

方針 1

瑞穂区ブランドを 活かしたまちづくり

瑞穂区ブランドって、
なんだろう。
“ブランド”だから、
他とは違う特別なものだよね。
全国的に有名な
“アレ”のことかな？



現状

瑞穂区の木及び花は「サクラ」であり、山崎川は全国的に有名な桜の名所です。区民アンケートでは、桜並木が64.5%、瑞穂公園が35.5%と多くの方が瑞穂区自慢であると認識しています。瑞穂公園陸上競技場は、第20回アジア競技大会のメイン会場であり、トップスポーツチームの本拠地でもあります。

新堀川周辺をはじめ区内には、ものづくり企業が集積しています。また、大学が3校、短期大学が2校、高校が7校あるほか市博物館を擁し、市内で有数の文教区です。

それだけでなく、古代から近代にかけての史跡など地域における歴史的資源が数多くあります。

課題

- ◆瑞穂区ブランドを確立することにより、区に対する誇りや愛着（シビックプライド）を高めていくことが必要である。
- ◆区民一人ひとりが、瑞穂区ブランドとして区独自の魅力に愛着と誇りを持てるよう、桜をテーマとした取り組みなどが必要である。
- ◆市内のスポーツ振興の拠点である瑞穂公園やトップスポーツチームの本拠地であることなどのスポーツコンテンツを瑞穂区ブランドとして最大限に活かし、区民がスポーツに親しみと関心を深め、第20回アジア競技大会に向けて機運を醸成していく必要がある。
- ◆ものづくり企業が区内に集積しているという区の特性を、瑞穂区の魅力としてさらに区内外に発信していく必要がある。
- ◆より魅力ある地域社会の形成や発展のため、大学等との協働による活動など文教区という特色を活かした取り組みが必要である。
- ◆瑞穂公園の整備や大規模なイベントの開催に伴い生じる課題に関係部署及び関係機関等と協力し対応していく必要がある。

みりよくと活力のあふれるまち

【区の特長・魅力】

桜や県内唯一の日本陸上競技連盟第1種公認陸上競技場、ものづくり企業等の集積、文教区などの区の特長を活かした取り組みにより、区に対する誇りや愛着（シビックプライド）が高まり、区と区民が一体となって区の魅力を瑞穂区ブランドとして発信します。
また、第20回アジア競技大会に向けて、地域一体となって盛り上げます。

FUTURE
VISION of
MIZUHO
2020-2023



施策

1

桜を活かしたまちづくりを進めます

実現させるための方策

区内外に向けた魅力発信

区の木・区の花である「サクラ」を区民が瑞穂区の自慢として感じられるよう、また、区外の方には、日本さくら名所100選に選ばれた山崎川の桜をはじめとした瑞穂区の桜の魅力について、インターネット等で発信します。



第15回さくら写真展 さくら大賞「夜桜」

桜に関する事業の実施

区民や区外の方へ瑞穂区の桜の魅力を感じていただくため、桜をテーマとした取り組みなどを行います。

特選
コラム

つくられた名所 “山崎川の桜”

山崎川は、名古屋東部丘陵地にある猫ヶ洞池を主な水源とし、瑞穂台地と八事丘陵の谷間を流れている川です。大雨で氾濫を繰り返す川であったため、昭和の始め治水事業で蛇行箇所を修正しました。現在でも旧流の痕跡が、流域周辺の段差や道筋に表れています。石川土地区画整理組合は、住宅地としての価値を高めるため、組合協賛会を組織として、乗合自動車を営業し、交通の便を図り、山崎川を整備し、竹林をすべて伐採し、石川橋～鼎橋に桜の木を植え、地区の美化を図りました。植樹された昭和3年（1928）は、同種の並木でも最古クラスです。その後下流にも桜が植えられ、上流と下流で桜の木の寿命が来る時期がずれ、常に桜並木を楽しめるようになりました。



（「瑞穂区近代の歴史散歩 ー身近な「地域遺産」発見・発掘ー」より）

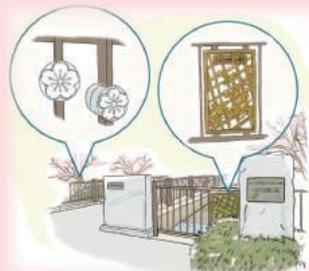
見どころポイント

さくら名所100選の碑

萩山橋の東側に「さくら名所100選の地」の碑が設置されています。橋の手すりには、右のような桜の飾りや銅板があしらわれています。

（「瑞穂区近代の歴史散歩

ー身近な「地域遺産」発見・発掘ー」より）



実現させるための方策

スポーツ推進に向けての啓発

スポーツに親しみと関心を深め、参加を促すため、広報などやインターネットを通じてスポーツの魅力を発信し、周知します。

スポーツ人口の増加促進

多くの区民にスポーツに取り組んでもらうため、区の大会の区内実施率を上げるとともに、区内にできる新しいスポーツ施設の利用・活用を促進するため、情報の提供につとめます。

第20回アジア競技大会に向けた機運醸成

令和8（2026）年開催の第20回アジア競技大会に向けた機運醸成として、スポーツを通じて地域の活性化を図るとともに、ジョギングパトロール隊の取り組みの周知や隊員の増加につとめます。また、本大会のメイン会場を含む瑞穂公園の整備工事等について、関係部署と連携しながら情報提供を行います。

トップスポーツチームと連携した地域の魅力発信

区内の2つのトップスポーツチーム「名古屋グランパス」「HC名古屋」と連携した事業を行うことで、区の魅力を発信します。



2



3



第20回アジア競技大会エンブレム

【趣旨】

スポーツのもつ躍動感を自由な曲線で描いています。

さん然と輝く太陽（OCAシンボル）と、紫・金・緑で作られ出される中央の直線は、人々が「ひとつ」に集い、未来へ向かう様を表しています。

愛知・名古屋らしく、愛知県の花「カキツバタ」の紫と、「名古屋城」の「しゃちほこ」の金、そして、愛知万博、COP10、ESDユネスコ世界会議を通じて培われた環境への想いを表す緑で彩っています。

また、紫と中央の直線は「アジア（Asia）」と「愛知（Aichi）」のAを、紫と金は「名古屋（Nagoya）」のNをかたどっています。



FUTURE
VISION of
MIZUHO
2020-2023





施策

3

区の資源を活かしたまちづくりを進めます

実現させるための方策

ものづくり企業等と連携した取り組み

区内にはものづくり企業はじめ多くの企業が集積しており、これらの企業の協力を得て、子どもたちにもものづくり産業の役割を伝えるとともに、未来を担う人材を育てるなどの取り組みを行います。



大学等や他の自治体との連携・交流

大学等や他の自治体の特色を活かし、連携や協力をしながら、まちづくりや防災、安心・安全、子育て支援、福祉、健康等の分野において事業の推進を図ります。

区内の歴史の調査と魅力発信

史跡散策路で紹介している史跡や近代の歴史など、地元への愛着をより深めてもらうために区の歴史を調査し、魅力として発信します。



成果指標

指標	現状値	目標値
瑞穂区が魅力的なまちだと思ふ人の割合	91.6%	95%
週1日以上運動・スポーツ※をする人の割合	70.1%	75%

※運動・スポーツ：ウォーキング（散歩、一駅歩きなど）や階段昇降等を含む



特選
コラム

誘致された運動公園 “瑞穂公園”

瑞穂耕地整理組合は、第一次世界大戦後、国民の体位の向上や、昭和15年（1940）の東京オリンピック開催が決定されるなどの動きのなかで、土地の付加価値を上げるため「運動公園」を誘致しました。しかし、1組合では面積が不足したため、隣接組合（弥富、弥富南部）と協力して約12ヘクタールの土地を捻出し市に寄附しました。昭和25年（1950）天皇・皇后両陛下がはじめてご臨席されることになった第5回国民体育大会が開催され、戦後の名古屋を活気づけるとともに道路や交通機関のインフラが整備され、戦後の発展に大きく貢献しました。（「瑞穂区近代の歴史散歩－身近な「地域遺産」発見・発掘－」より）

